みんなのスペース

◆あて先・問い合わせ　〒028-1392（住所不要）山田町役場総務課情報係（内線417）へどうぞ。

織笠地区に明るい兆しが

震災から一年半が過ぎ、活動を途絶えていた織笠地区コミュニティ推進協議会が立ち上がり、去る7月29日午後1時から轟木小学校で織笠復興歌謡ショーが開催されました。幕開けとなる伝統ある鶏舞を勇壮に舞う女性たちに見ほれました。詩吟、カラオケ、吹奏楽や老人クラブの踊りなど、私の好きな「あの鐘を鳴らすのはあなた」なども歌われました。どの出演者にも会場は拍手喝采。トリの織笠八木節を見ながら、40数年前山中体育館で華々しく仲むつまじく踊った方々を思い出し…。出演者、役員の方々、つらい立場ですが、前向きのご協力に感銘を受けました。

また、8月16日送り盆の夕方、小学校入り口では震災で亡くなられた111名の御霊、夢明かりが並べられ、住職さんが追善供養。私は一瞬に永遠の別れとなったことを追想しながら合掌。偶然、空には虹がきれいにかかっていました。

織笠地区コミュニティ推進協議会の役員の方々のご配慮に地区民として感謝申し上げます。

菊地　サカエ（織笠・77）

忘れるな、津波は必ず来る

9月11日、東日本大震災より今日で1年半と報道組織は大きく取り上げている。皆さんそれぞれに複雑怪奇なる思いがあるが、長くも早い1年のことだったろう。

俺、現実と中国唐時代の代表的詩人杜甫（とほ）の詩が感情的に思い重なる。3月11日の大津波襲来。“国破山河有”大津波、夢も希望も身も心も破れ去り、うつろなる心と故郷の山と河。膨大なるがれきだけが残る。暦の上ではすでに春。我が北国は粉雪もちらつく厳寒の候でも時は進み、草木も茂る盛春、犠牲になられた方々に捧げる花にも涙。別れを悲しんでは、波の音にも心が揺らぐ。津波による各地の火災が数日におよぶ中、各地より安否を気遣う家書情報の少ない中に万全に値する家書、ありがたくいただく。

でも白髪光頭の今、あの30年内に襲来するとした津波の公表に、海そして沿岸に生きる人々が信頼して行動を考えたのか？必ず襲来して津波に対しての知識については先人から聞く。

今盛んに論議をしている南海トラフ地震は東日本大震災の数倍にもおよぶとした犠牲者の数、どこの都市の人口ぐらいになるのだろう。南海トラフによる津波が襲来したら日本列島半分全滅？…30年内、99％で襲来の経験を生かして南海トラフに対しての防災に万全を期していくと考えている。

山﨑　卓三（大浦・?）

働くアリたち

気温30度を超す記録的な猛暑が続くこのごろですが、小学生のころ「アリとキリギリス」という昔話を聞いたことがありました。そんなことを思い出しながら、今は何をするでもない自分を振り返る時、この白熱の暑い日中にアリたちは「せっせ、せっせ」と越冬のための蓄えに余念がない。この暑い日中に食糧となる「エサ」を集め、一匹で運べないものは、仲間に連絡をし、仲間を集め協力しながら巣穴へと運ぶ。そして、巣穴の入り口より大きければ、今度は解体するアリが出て来て解体して巣穴の中へと運び入れる、その助け合いのしぐさは、人間社会より上級な団結力と私は思う。

「エサ」を見つけ巣穴に向かう方向感覚もすばらしい。それに比べて方向音痴の自分を情けなく思う。これからはアリたちを見習って一生懸命頑張りたいと思うこのごろです。

西舘　隆（船越・?）

わたしの一枚

「セミの羽化」

8月11日の花火大会の帰りに見つけて撮りました。

北小5年男子（11）

やまだ文芸広場

鎮魂の鐘鳴らし
海ながむれば
山田の海の色の深さよ

内舘　洋一（飯岡・69）

命の秋

秋になると、
恋しく余計に思う時。
それでも生きる事に秋（あき）らめず
命の秋を一笑（いっしょう）に共に生きま笑（しょう）。

佐藤　啓子（山田・?）

イラストコーナー

佐々木　真央（7）

真矢（11）